

港区立南山小学校
令和 3 年度 授業改善推進プラン

1 区学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果を踏まえた課題

国語	区学力調査の結果、2・3・5年生は概ね区平均より正答率が高いか同等である観点が多い。一方4・6年生の正答率は、ほとんどの観点で目標値を上回ってはいるものの、漢字や「書くこと」では区平均を下回っている。全ての学年に共通の課題となるのは、「書くこと」に関する力である。「話すこと・聞くこと」、「読むこと」についても記述問題での誤答や未記入が多く、思考・判断したことを整理して表現する力が弱いことが分かる。「書くこと」への抵抗感を減らす工夫や、思考を整理して表現することについての指導の工夫が必要である。
社会	区学力調査の結果、4年生は平均正答率が目標値より4.3ポイント、5年生は3.4ポイント高い。4年生は特に「基礎」が目標値より5.9ポイント高い。一方、区平均と比較し、「活用」や「主体的に取り組む態度」が課題といえる。5年生は区及び全国平均値より観点別でほぼ上回り、「活用」や「主体的に取り組む態度」が5.3ポイント高いが、「領域ごとの習得の差」がある。6年生は平均正答率が目標値より0.3ポイント低く、「主体的に取り組む態度」や「記述」が課題である。「知識・技能」の習得がどの学年もやや弱い。学年ごとに課題が異なるため、学年に応じた指導の工夫が求められる。社会的な事象に出合える機会を意図的に増やし、協働的な課題解決の中で、社会的な見方・考え方を養っていく。
算数	区学力調査の結果、2～6年生が区設定の目標値より高く、2～5年生は区平均正答率と同値、もしくは上回っている。また、観点別に見ると、どの観点も目標値を10ポイント以上上回っている。一方で「知識・技能」に比べて「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」が10～15ポイント低い。この2観点について向上を図るために、児童の理解や習熟の程度に応じて学習集団を編成し、習熟度に合わせて自力解決・発表・検討の時間を意図的に設定し、思考力・判断力・表現力の育成に努める。
理科	区学力調査の結果、全国平均に比べ、4年生は平均と同値で、5年生は1.9ポイント高く、6年生は1.2ポイント低いと分かった。6年生は4年生の頃の結果と比べ、2.8ポイント上昇はしている。全体的に自然や気候に関する問題の正答率が低い。どの学年も共通して弱い観点は「知識・技能」であるので、観察や実験などの科学的な活動を授業に多く取り入れ、知識・技能の向上を図っていく。

2 各教科の具体的な授業改善

国語	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが伝わるように文章を書く力の向上（学びに向かう力・人間性等） ・聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えを整理して表現する力の向上（思考力・判断力・表現力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く相手や目的を意識し、中心や自分の考えを明確にして文章を書く活動を多く設定する。また、文字数・段落構成などの条件に合わせて書く活動を取り入れる。 ・要旨や主張の焦点などの共通点などに気を付けながら聞いたり読んだりし、自分の考えをまとめる活動を設定する。 ・自分の考えをもった上で友達と意見や感想を交流し、考えを広げたり深めたりする活動に取り組む。
社会	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能の向上（知識・技能） ・課題を追究したり、解決したりす 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用し、地図記号や都道府県、国名、人名等の基礎知識の復習を必要に応じて行う。 ・児童の主体的な思考力を育むために、デジタル教科書や地図アプリ等を活用し、調べたいことを具体的に追究できる場を整える。

	<p>る力の向上 (学びに向かう力・人間性等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーや実地調査等を取り入れ、児童が追究したい課題に応じた適切な資料や情報を得る場を設定する。 ・思考を深める補助発問の工夫や思考ツール等を活用する。
--	---------------------------------	---

算数	<p>育成を目指す資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題場面を的確につかむ力の向上(問題把握力)。 ・自力解決の過程を分かりやすく表現する力の獲得(表現力)。 ・進んで課題解決に取り組み、学んだことを振り返ったり次に生かそうとしたりする態度の育成(学びに向かう力・人間性等) 	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題把握力については、より具体的に問題場面をとらえられるように具体物やICTによる視覚化を活用する。また、習熟度別に評価と支援の仕方を工夫する。 ・表現力については、自分の考えを分かりやすく表現するために表や図、グラフなどを用いて表現できるよう支援する。 ・ラインズ e ライブラリや eboard を活用し、苦手分野の問題を復習したり、動画で解き方や考え方を振り返ったりすることができるようにする。
----	---	---

理科	<p>育成を目指す資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を明確にし、課題を追究したり、解決したりする力の向上(学びに向かう力・人間性等) ・観察や実験に関する基本的な技能や知識の向上(知識・技能) 	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が、課題解決のための実験方法を考えたり、既習の学習や自然事象をもとにして、自分の考えをもつことができたりするよう児童主体の学習を工夫し、身近な生活と結び付けて考えるようにする。 ・観察や実験を多く取り入れ、体験的な活動を通して、知識・技能を身に付ける。また、観察、実験の過程や得られた結果を適切に記録し、予想と比べながら理解する。
----	---	---

生活	<p>育成を目指す資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々や自然に関心を持ち、自分との関わりで捉える力(思考力) ・自分の体験や気付きを、表現につなげる力(表現力) 	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動や体験を気付きとして、自分の生活と結び付けて考えることができるよう、教師が児童の気付きを整理して示すようにする。 ・他教科との合科的・関連的な指導を行うことで、様々な活動や体験を通じて、自らの気付きを深められるようにする。 ・表現する機会を多く設定し、様々な表現を知り、自分の思いに合った表現方法を選ぶことができるようにする。 ・学級だけでなく、保幼、学年や異学年交流などの機会を活用し、自分の思いを表現したくなるような活動を工夫する。
----	---	--

音楽	<p>育成を目指す資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会の中の音楽と豊かに関わり、音楽に親しむ力。(学びに向かう力、人間性等) 	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喜びをもって質の高い深い学びにつなげていくように、習得・活用・探究の学びの過程を意識して学習活動を計画する。 ・児童が学んでいることや学んだことを自覚できるように、教師が評価し価値付けていくようにする。
----	--	---

図工	<p>育成を目指す資質・能力</p> <p>表現活動を通して、自分の考えや表現を深めたり、新しい価値に気付い</p>	<p>資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自らの活動のねらいや価値を理解し、表現につなげられるような学習活動と教師の関わり方を工夫する。
----	--	---

	たりすることのできる力。 (思考力・判断力・表現力)	・題材と指導計画を工夫することで、習得・活用・探究を繰り返すことができるようにする
--	-------------------------------	---

家庭	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・調理・裁縫の基礎的な知識・技能 (知識・技能) ・学んだことを活用して生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度 (学びに向かう力・人間性等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定と指導計画を工夫し、基礎的・基本的な技能を習得し、生活での実践につなげる。 ・家庭で調理をし、その様子をタブレットで保存、学級で共有する学習の流れを使い、生活で実践する機会と学びの保障につなげる。 ・学習過程を工夫することで、習得した知識及び技能を活用して身近な生活の課題を解決したり、家庭や地域で実践したりできるようにする。

体育	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や健康についての自己の課題の解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力 (思考力、判断力) ・健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度 (学びに向かう力、人間性等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決のための方法を児童が自ら思考し、選択できるような場の設定を工夫する ・自分の成果と課題を振り返ることができるよう学習カードを工夫し、評価と支援に生かす。 ・体力向上の成果を確認するために、定期的に記録測定を行い、自己の課題解決に生かすことができるようにする。 ・発達の段階に応じて高める体力の重点化を図り、自己の体力や体の成長に応じて適切な体力の高め方が理解できるように活動を工夫する。 ・習得した知識や技能を日常生活や行間体育で活用できるような学習内容を工夫する。

国際	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な英語を話したり聞き取ったりして、友達とすすんでやり取りをする力。(知識・技能) ・英語の表現や表情・身振りなどを活用して、積極的にコミュニケーションする力。目的達成のために、適切な言語を選び、どのように表現するのかを考え判断する力。(思考力・判断力・表現力等) ・外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重・表現しようとする態度 (学びに向かう力・人間性等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や授業の進め方や、教材、掲示物を統一し、児童が見通しをもてる学習展開を提示する。 ・単元ごとに担任とNTが共通理解する授業プランシートを活用し、具体的なねらいをもとに、HRT (担任) を中心に、NTと協力した授業を展開する。 ・友達とのコミュニケーション、スピーチ、プレゼンテーションなど、単元ごとの身に付ける力を明確にし、評価と支援に生かす。 ・様々な国の挨拶や文化に触れ、それぞれの特徴や自国との違いに気付き、外国に関心をもてるようにする。 ・5・6年生の評価に関しては、話す・聞くの場面で「やり取り」と「発表」を具体的に分け、それぞれの評価の仕方を工夫する。

道	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
---	-------------	----------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・主題について多面的（対比によるみとめ合い）・多角的（議論による磨き合い）に考え、学んだことを生活に生かそうとする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りができるよう、道徳ノートやワークシートを活用しながら授業を進める。 ・多面的・多角的な発問をすることで、子どもが考えたいと思うテーマを子ども自身が教材から探し出し、議論できるようにする。
--	--	--

特別活動	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったりして、よりよい人間関係を築こうとする態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年による交流は感染症対策をしながら、状況を見て行う。学校行事の意義や目的を共有し、相手意識や目的意識をもって行動ができるようにする。（実施が難しい場合でも、中止にするのではなく、参加人数を工夫したり、Teams や撮影した動画を放映したりして実施できるようにする。） ・あいさつや廊下の歩き方、休み時間の過ごし方など、普段から上級生がよりよい姿や態度を示すことで、低学年が憧れをもったり、なりたい自分の姿をイメージしたりできるようにする。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習の課題を設定し、それらを解決するために必要な方法を選択して、追究していく力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の様子、環境問題、自らの将来の目標等、学年の実態に応じた課題を設定し、身に付ける力を明確にし、実社会・実生活に生かせる指導計画を立てる。 ・各教科で身に付けた学習内容を活用して課題を追究する方法の選択肢を広げ、問題解決能力の向上を図る。